

12月のことば

正しい心③ ～ 「教育とは知識を教える事に非ず」

来年の大河ドラマ「八重の桜」は、幕末から明治にかけて激動の日本を生き抜いた会津藩士の娘 山本八重（綾瀬はるか主演）が主人公であり、久々に継続して観ようかと楽しみにしています。

会津は新政府軍の標的となり賊軍の汚名のもと攻撃され、白虎隊など10代の若者や女性までもが戦い壊滅。死体を埋葬する事も認められず、又、北の地下北半島への移転や様々な逆境を強いられます。輝かしい明治時代に会津人は「忍」の一字しかありませんでした。

しかし！地を耕し、牛馬を飼育し、酒・薬用人参や工芸品を作り、養蜂をし、そして、人材が育ち世に送り出しました。

教科書で習う、明治（日本近代）の成功の各記述。その内容を一步踏み込んでみると、逆境を強いられたはずの会津の人が関わって支えているのを見出せます。

* * *

混濁の平成日本。私は数年前会津を訪れ、今でも開講しているという藩校「日新館」に入り、館長の話しを聞きました。

館長はカレンダーの裏を使って“什の掟”として、十の正しい心を書いて、大きな声で、

「教育とは、徳なることをする者を、ひたすら誉めることである。」

「徳とは、そもそもは徳 という字形で、彳 と（直⇒）直 と 心 から成っている。」

「つまり、直なる心（＝ 正しい心）を 彳（＝ ing…現在進行している）者の事である。」

つまり、教育とは「正しい心」を行っているのを見つけて誉めて、やる気にさせて、個々の能力を開花させる事に有り！と……。

日新館の外に出ると、中学生が見知らぬ我々に次々と挨拶をしてくれました。

* * *

明治の戊辰戦争で、目に見える利を全て失った会津。「しかし、目には見えぬが日本を強く成功に導いた心が、今もここに残っている。」と思うと、日本人として、目頭が熱くなるとともに、この心を伝えていくのが我使命であると思った次第です。

< 正しい心 >

- ・ 年上の言う事を聞く
- ・ 年上にお辞儀をする（礼儀）
- ・ うそ（虚言）をついてはならぬ
- ・ 卑怯な振る舞いをしない
- ・ 弱い者をいじめない（動植物をかわいがる）
- ・ 人に迷惑をかけない
- ・ 人間としての品格を保つ
- ・ 相手を思いやる ～敗者に対する思いやり（武士道）

*会津の“什の掟”を参考に作成